



財団法人 成長科学協会

理事長 入江 實

私は本年（平成11年）4月から鎮目理事長の後任として成長科学協会第三代目の理事長として就任致しました。従来から理事の一人として、心の発達研究委員会及び委員会の企画運営による公開シンポジウムは、成長科学協会の中で非常に重要なものであるという認識をしております。今後も成長及びその障害の克服という観点から当協会の発展をはかりたいと考えておりますので、御協力の程をよろしくお願ひしたいと存じます。

さて、今回は「生きる力」という命題のもとに丹羽洋子先生の御司会によって5人の演者の方々にお話し頂きディスカッションを行うというシンポジウムを開催することといたしました。今日大変重要であると考えられる問題であり、多数の皆様の御参加をお待ちしています。

「生きる力」 ～どうすれば育つのか？～

最近、「生きる力」ということがわが国の教育目標としてクローズアップされるようになった。確かに、持久力の低下、偏食や摂食異常、弱いものいじめ、きれやすさ、閉じこもり、自殺の若年化など、若い人達の心身がひ弱くなっているように見える現象がふえている。さまざまな環境的、身体的、心理的状況のもとで果敢に生きて行く力を育てなければと考えるのは当然である。

だがそれでは何が「生きる力」なのかということになると、文部省の審議会の答申も抽象的かつ曖昧である。それがはっきりしないと、「生きる力」の教育が、根性主義や適応主義やサバイバルゲームに墮すおそれがある。

そこでこのシンポジウムでは、「生きる力」とは何か、どうすればそれが育つのか、についてそれぞれのパネリストのお立場とご経験から、問題の提起と忌憚のない討論をお願いし、育児、教育にかかわる人々の参考にさせていただきたいと思ひます。

パネリストとして、日本小児科学のリーダーとして子どもの心身の発達を国際的に研究する「子ども学」を提唱しておいで小林登氏、長く文部省の教育課程政策の中核にあって良識を信頼されてきた奥田眞丈氏、育児についての文化人類学的研究で日本の第一人者である原ひろ子氏、施設ケアの限界を体験し、家庭と同じ様な環境の中で同じ人が一貫して育てる生活を夫と共に17年続けてこられた横堀三千代氏をお願いしました。

心の発達研究委員会 委員長 東 洋（文京女子大学人間学部教授、東大名誉教授）
委員 小林 登（甲南女子大学教授、国立小児病院名誉院長）
〃 原 ひろ子（お茶の水女子大学ジェンダー研究センター長）
〃 大野 澄子（日赤医療センター）
〃 丹羽 洋子（育児文化研究所長）
〃 森 玲子（精神障害共同作業所アリス）

プログラム

テーマ： 「生きる力」
～どうすれば育つのか？～

司会 丹羽 洋子

13:30～ 開会 あいさつ

入江 實

プレゼンテーション

東 洋

演者からの提言

奥田 眞丈

原 ひろ子

横堀三千代

小林 登

休 憩

ディスカッション 質疑応答

ま と め

東 洋

～16:30

演者紹介

東 洋 (あずま ひろし)

文京女子大学人間学部教授。東京大学名誉教授。日本発達心理学会会長。教育心理学、発達心理学会の重鎮。東京大学教授、教育学部長を経て現職。心の発達と教育について、日米比較研究など。

丹羽 洋子 (にわ ようこ) <司会>

育児文化研究所所長。
出版社を経て、育児文化研究所を設立。育児に関する講演などを通じ、多くの日本の子育ての現場を目のあたりにし、関係者の助言にもあたっている。「今どき子育て事情」(ミネルヴァ書房)の著者。

奥田 眞丈 (おくだ しんじょう)

芦屋大学学長。世界教育連盟(WEF)総裁。
東京帝国大学文学部卒業。文部省32年間、横浜国立大学教授、川村学園女子大学副学長兼東京都立教育研究所長を歴任。教育学、教育経営、教育課程関係専攻。

原 ひろ子 (はら ひろこ)

お茶の水女子大学教授・ジェンダー研究センター長。
文化人類学・女性学・ジェンダー研究の草分け的存在。
「子どもの文化人類学」(晶文社)、「しつけ」(弘文堂)、「母親の就業と家庭生活の変動」(弘文堂)等の著者。

横堀三千代 (よこぼり みちよ)

群馬県前橋市生まれ。児童養護施設に勤務の後、夫とファミリー・グループホーム(養育家庭)横堀ホームを開設。子どもから大人までの家庭を必要とする方たちを受け入れ、上州・赤城南麓の自然の中で生活実践を展開している。

小林 登 (こばやし のぼる)

東京大学名誉教授。国立小児病院名誉院長(医学博士)。
東京大学医学部卒業。アメリカとイギリスの小児病院に留学。東京大学医学部教授(小児科学)。国立小児病院小児医療研究センター初代センター長、国立小児病院長を歴任。現在は、甲南女子大学国際子ども学センター所長、またインターネットのChild Research Net (<http://www.crn.or.jp/>) 所長として、国内ばかりでなく、国際的にも子ども学研究を進めている。